

## リスク部会報（第 17 号）

2026 年 3 月発行

---

### はじめに

---

リスク部会報第 17 号をお届けいたします。

2017 年 9 月に当部会は設置され、約 8 年半が経過しました。300 名を超える部会員に参加いただき、活発な活動を行っています。これまでに、原子力学会春の年会および秋の大会における企画セッション、セミナー、ワークショップの開催、国際会議の開催協力、学会他部会、他学会との連携活動、研究専門委員会の開催、部会「奨励賞」の設立と授与、連載講座、ウィークリーウェビナーの開催を行ってきました。

2022 年にロードマップ「GX 実現に向けた基本方針」がまとめられ、2025 年 2 月には第 7 次エネルギー基本計画が閣議決定され、原子力の活用がうたわれています。次世代革新炉の開発・建設に應えるためにリスク部会は何ができるか？リスク部会の皆様と共に考えていきたいと考えています。

今後ともご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

---

### 目次

---

- (1) 「日本原子力学会 2025 年秋の大会」第 17 回全体会議の報告
- (2) 「日本原子力学会 2025 年秋の大会」企画セッションの報告
- (3) リスク部会賞（奨励賞）の授与について
- (4) ASRAM2025 特集：ニュースレター（第 8 号）発行
- (5) リスク部会シンポジウム“RIDM の実装の課題と解決策”の報告
- (6) 令和 6 年度リスク部会運営体制（役員名簿）
- (7) 今後の活動
- (8) 編集後記

---

## (1) 「日本原子力学会2025年秋の大会」第17回全体会議の報告

<http://risk-div-aesi.sakura.ne.jp/meeting.html>

---

2025年秋の大会でリスク部会の全体会議が開催されました。以下に会議録を示します。

日時： 2025年9月10日(水) 12:05~12:45

場所： 北九州国際会議場 I会場 (AIM 3F E 展示場)

全体会議資料：<https://risk-div-aesi.sakura.ne.jp/documents/meeting/M20250910.pdf>

議事：

1) 開会挨拶：成宮部会長

- 部会長よりリスク部会の活動に対する御礼及び、安全目標検討合同 WG の活動について説明があった。特に質疑はなかった。
- 同 WG は、リスク部会と原子力安全部会の合同 WG として発足したものであり、2024 年度に 6 回、2025 年度に 2 回の WG を開催。
- 2025 年度上半期の WG 活動では、事例として実証が進んでいる OLM (運転中保全) へのリスク情報活用を参照して議論している。

2) 2025 年度/2026 年度の重点取り組み事項：成宮部会長

- 2025 年度/2026 年度の重点取り組み事項として、「PSAM18 (米国) および ASRAM2026 (韓国) の開催協力」、「ASRAM2027 の日本開催に向けての準備」、「リスク情報活用の推進のための取組」、「PRA テキスト整備の推進」を行っていく旨の説明があった。

3) 2025 年度運営委員について：渡邊委員

- 成宮部会長、廣川委員、小野寺委員、高田委員、木村委員の再任、竹次委員、三輪委員の新任について決議した。

4) 2025 年度上半期活動実績/2025 年度下半期・2026 年度活動計画：各小委員長

- 各小委員会より、2024 年度下半期活動実績/2025 年度活動計画について報告があった。
- 総務小委員会より、部会の会員数、春の大会での第 16 回全体会議及び第 1~第 3 回リスク部会幹事会の開催について報告があった。部会員の減少の原因についての質問があり、今後分析を行うと回答した。
- 財務小委員会より、2025 年度予算計画について報告があった。
- 企画・研究小委員会より、2026 年春の大会及び 2026 年秋の大会における企画セッション、シンポジウム等を開催する予定であることの報告があった。また、リスク部会奨励賞は竹田敏氏 (大阪大学)、東山陽氏 (北陸電力) の 2 名が受賞し、表彰式で両名にご挨拶をいただいた報告に併せてリスク部会奨励賞の表彰式があり、受賞者として、山本将寛氏 (日本原燃)、高野優氏 (東京都市大学) の 2 名が発表され、両名にご挨拶をいただいた。

- 国際小委員会より、2025年度上半期の活動実績として、PSA2025（米国）、ASRAM2025（タイ）の説明があった。また、2026年度の計画としてPSAM18（米国）、ASRAM2026（韓国）開催への協力、ASRAM2027日本開催への準備をしている旨説明があった。
- 広報・出版小委員会より、2025年度上半期の活動実績として、リスク部会報（3月公開、9月公開予定）の発行、ニュースレター（ASRAM2025特集）の発行予定の報告に加えて、ホームページコンテンツの充実について説明があった。

以 上

---

## (2) 「日本原子力学会2025年秋の大会」企画セッションの報告

<http://risk-div-aesj.sakura.ne.jp/seminar.html>

---

2025年秋の大会でリスク部会主催の企画セッションが開催されました。以下に概要を示します。発表に使用された資料や議論の詳細など、部会のHPに情報がありますので、ぜひアクセスください。2026年春の年會においても部会の企画セッションを行いますので、こちらもぜひご参加ください。

セッション名：リスク情報を活用した運転中保全(OLM)の導入 ー取り組みの現状ー

日時： 2025年9月10日(水) 13:00~14:30

場所： I会場 (AIM 3階 E 展示場)

座長：成宮 祥介 (東大)

電中研より OLM ガイドライン (2024 年策定) の概要と、全ハザード評価・性能監視の明確化等の改善方針、②四国電力より伊方発電所での OLM 現場実証 (常用 DG、高圧注入ポンプ) の実施概要、③同社より内的 PRA・地震 PRA を用いたリスク評価手法と管理措置検討、④規制庁より実証に至る議論と確認要領(案)、フルスコープ PRA の課題検討が報告された。質疑では、米国メンテナンスルールとの相違、指標(CDF/CFF)と大規模放出指標 (Cs-137 等) の扱い、事故シーケンス周知、訓練方法、OLM 中止・復旧判断、重要項目の絞り込み根拠、外的事象 PRA の活用、不確かさと前提説明の重要性等が議論され、PRA 結果と説明をセットで用いること、必要に応じた対象事象の絞り込みと説明責任が重要との認識が共有された。

### 【内容】

- ① 運転中保全ガイドラインの概要 (渡邊 学：電中研)
- ② 伊方発電所におけるオンラインメンテナンス導入に向けた取り組みについて (高木 宏樹；四国電力)
- ③ OLM に適用するリスク評価技術について (香川 明彦；四国電力)
- ④ 原子力規制庁における OLM に関する議論について (村上 玄；規制庁)

(敬称略)

### (3) リスク部会賞（奨励賞）の授与について

(企画・研究小委員会)

リスク部会では、原子力施設のリスク評価分野における若手研究者・技術者（40才以下）の奨励を目的として、本分野の研究・技術開発等にかかる活動の成果を「秋の大会」または「春の年会」で発表し、その内容が学術的・技術的に優れていると認められる発表に対してリスク部会賞（奨励賞）を授与しています。10回目となる「2025年春の年会」での発表においては、リスク部会長を委員長とした選考小委員会による厳正な審査に基づいて、以下の2名に奨励賞を授与することを決定いたしました。

氏名 竹田 敏  
所属 大阪大学  
受賞内容 行動影響因子に着目した詳細なプラントシミュレータ実験結果によるデータ同化

氏名 東山 陽  
所属 北陸電力株式会社  
受賞内容 令和6年能登半島地震に対する志賀原子力発電所の取り組み (1)志賀原子力発電所2号機における変圧器故障によるリスク評価

(敬称略)

リスク評価分野の更なる発展のためには、リスク評価に必要な多様な技術を開発するとともに、リスク評価から得られる情報を的確に分析し、安全性の向上等に効果的に活用する人材が不可欠です。リスク部会の若手部会員の皆様、原子力学会の学生会員の皆様には、専門知をより一層深め広げるためにも、研究・技術開発等にかかる活動の成果を積極的に学会の場で発表し、学会に集まる多くの専門家と議論することをお願いいたします。



表彰式

---

#### (4) ASRAM2025 特集：ニュースレター（第8号）

<https://risk-div-aesi.sakura.ne.jp/newsletter.html>

---

ASRAM(Asian Symposium on Risk Assessment and Management)2025 が 2025 年 8 月 27～29 日にタイのパタヤで開催された。本シンポジウムは、2016 年に日中韓 3 か国のリスク評価の代表が覚書を交わして開始され、2017 年(横浜)、2018 年(中国廈門)、2019 年(韓国慶州)で 3 か国を一巡した。二巡目は新型コロナ禍にありながら、2020 年(バーチャル、日本主催)、2021 年(バーチャル、中国主催)、2022 年(ハイブリッド、韓国大田)と工夫しながら継続し、2023 年(中国香港)から対面開催に戻った。2024 年(仙台)は PSAM17 と合同で開催した。2025 年は、日中韓以外の国で開催したいというかねてからの希望が実現し、韓国の支援を受けてタイで開催された。参加者数は 194 名だった。国別では、日本 29 名、中国 28 名、韓国 53 名、タイ 56 名、その他 28 名だった。論文数は 118 件で、口頭発表が 95 件、ポスター発表が 23 件であった。日本からの発表はキーノート 1 件、プレナリーディスカッション 1 件、特別ワークショップ 1 件、テクニカルセッション 15 件、ポスターセッション 4 件だった。1 日目終了後のレセプションでは、ASRAM 発足 10 周年を祝賀するセレモニーが開催された。また、以下がアナウンスされた。

- ASRAM2026：2026 年 11 月 18～20 日、韓国済州島で開催予定  
<https://www.asram2026.org/>
- PSAM18：2026 年 7 月 19～23 日、米国ペンシルベニア州ピッツバーグで開催予定  
<https://www.iapsam.org/PSAM18/index.html>

以上

---

## (5) リスク部会シンポジウム “RIDM の実装の課題と解決策” の報告

<https://risk-div-aesj.sakura.ne.jp/seminar.html>

---

日時：2026年2月18日（水）9:00～11:00（日本時間）

場所：ウェブ会議@Zoom（Webinar形式）

議事：

### 1) 開会挨拶：成宮 祥介（司会）

- リスク部会の目的は、①定量的PRAに関するRIDM（Risk-informed Decision-making）の促進を図ること、②研究者とエンジニアを含む関係者の意見交換の場を設けること、の2点であると説明された。
- 本Webinarのテーマは“Challenges and solutions in implementing RIDM”であり、米国における60年以上にわたるRIDMの活動・経験から得られる示唆を手掛かりとして、日本におけるRIDM実装を議論する趣旨で開催されたことが述べられた。

### 2) 講演1：渡邊 学（NRRC）「Current Status of Strategic and Action Plans for RIDM and Future Challenges」

- 福島第一事故の教訓を踏まえ、電力事業者が2018年に二段階（Phase 1/Phase 2）の「RIDM導入の戦略・行動計画」を公表し、その後2023年に最新版へ更新された経緯が紹介された。
- 行動計画の実行状況が紹介され、PRA高度化等の基盤整備やRIDMの適用が着実に進展していることが示された。
- NRAとの意見交換を通じて、OLMの試行的適用が進んでいること、制度面の検討も並行して進み得ることが説明された。
- 今後の課題として、内的事象・地震・津波の整備が進む一方で、内部火災・内部溢水等のPRAが十分でない点が指摘され、未整備ハザードを含む意思決定の考え方を整理する必要性が示された。

### 3) 講演2：Fernando Ferrante（EPRI）「History of RIDM in the United States, Challenges and Solutions」

- 米国におけるRIDMの歴史が紹介され、初期の検討において、信頼性データ、共通原因故障、不確かさの扱い、人間信頼性、実装可能性等の観点で強い批判を受けたことが述べられた。
- 不確かさ、保守性、安全余裕、DiDといった用語は文脈依存であり、「不確かさを問題として扱う」姿勢からの転換と、より良いリスクコミュニケーション（何をどの前提で、どの程度の保守性で言っているかの明確化）の必要性が強調された。
- 対象が外的事象、マルチユニット、使用済燃料プール等へ拡大する中で、専門分化と統合が同時に進むため、人材育成が喫緊の課題であることが指摘された。

- RIDM は安全性向上と本質的に結び付いており、脆弱性を特定することで、公衆を含む複数のステークホルダーに便益が生じる点が示された。

#### 4) 意見交換・質疑 (20分)

- RIDM の適用に関して事前に日本から送付しておいた質問において、米国の適用例を踏まえ、PRA だけでなく決定論的観点も組み合わせて意思決定を行う考え方が紹介された。
- 完全性に関する質問で、不完全性については「欠けている要素がどの程度重要か」を把握することが重要であり、さらに既存モデルの品質確保が重要であることが強調された。考慮できていない要素についても、適用をふまえ、スクリーニングや保守性を仮定すること、また、結論が変わらないことを示して正当化する考え方が示された。
- 段階的(phased/graded)アプローチに関する質問で、全ハザードを最初から揃えることを前提とせず、適用を進めながらモデル・能力を整備するアプローチが紹介された。
- ステークホルダー間の関係に関する質問では、事業者・規制当局に加え学会・研究機関等の関与、規制側の率直な懸念提示、継続的改善とリソース共有の重要性が述べられた。

#### 5) 閉会挨拶：白井 孝治

- 本日の講演・議論が海外知見も踏まえた包括的内容であり、一般公衆やステークホルダー間の信頼醸成につながることへの期待が述べられた。

以上

## (6) 令和6年度リスク部会運営体制（役員名簿）

2025年 9月 10日

（敬称略）

役職・委員会	氏名（所属）	役割
部会長	成宮 祥介（東京大学）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会及び小委員会を統括</li> <li>・原子力学会代議員</li> </ul>
副部会長	白井 孝治（電中研） 丸山 結（JAEA）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会長の補佐</li> </ul>
幹事	各小委員会の委員長	
総務・財務 小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎渡邊 学（電中研）</li> <li>○廣川 直機（日立GEパルバニュークリアイノベーション）</li> <li>○竹次 秀一（関西電力）</li> <li>○小野寺 将規（三菱総研）</li> </ul>	（総務） <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務</li> <li>・部会の開催等</li> <li>・他の小委員会が所掌しない事項</li> <li>・部会等運営委員会委員</li> </ul> （財務） <ul style="list-style-type: none"> <li>・部会の予算策定、管理及び決算</li> </ul>
企画・研究 小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎丸山 結（JAEA）</li> <li>○氏田 博士（環境安全学研究所）</li> <li>○三輪 英紀（三菱重工）</li> <li>○張 承賢（北海道大学）</li> <li>○今井 俊一（東電HD）</li> </ul>	（企画・戦略） <ul style="list-style-type: none"> <li>・部会の活動方針・戦略案の作成</li> <li>・活動方針・戦略に従った企画・執行</li> </ul> （研究） <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究を活性化させるための活動の企画・遂行に関する事項</li> </ul> （人材育成） <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材の育成、研究者・技術者の裾野を広げるための企画、活動</li> </ul>
国際 小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎菅谷 淳子（日本I・L・I）</li> <li>○白井 孝治（電中研）</li> <li>○高田 孝（東京大学）</li> <li>○木村 謙仁（I・L・I-経済研）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際会議等の開催</li> <li>・国際協力窓口</li> <li>・国外学協会との交流</li> </ul>
広報・出版 小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎牟田 仁（東京都市大学）</li> <li>○蛭沢 勝三（元 電中研）</li> <li>○倉本 孝弘（原子力I・I）</li> <li>○竹田 敏（大阪大学）</li> <li>○當房 拓朗（東芝ESS）</li> </ul>	（広報） <ul style="list-style-type: none"> <li>・部会報、ニュースレターの発行</li> <li>・ホームページの作成・管理</li> </ul> （出版・編集） <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文、論文集、教材などの出版・編集</li> <li>・編集委員会幹事会委員</li> </ul>
	◎：委員長、○：副委員長	

## (7) 今後の活動

リスク部会が主催・共催している講演会、企画セッション、学会会議等、直近のイベントをご紹介します。

### 日本原子力学会「2026年春の年会」 企画セッション／部会・連絡セッション（リスク部会主催）

#### [1M\_PL] 断層変位PRAの理解と利用

日時：2026年3月11日(水) 12:30～14:00

場所：M会場(熊本城ホール6F 会議室601+602)

座長：成宮 祥介(東大)

- (1)断層変位に対する安全評価におけるPRAの位置づけ（糸井 達哉；東大/JAEA）
- (2)確率的断層変位ハザード解析手法及び適用例（高尾 誠；ATENA）
- (3)断層変位フラジリティ及び事故シーケンス評価手法とPRA結果の考え方（原口 龍将；MHI）
- (4)断層変位リスク評価に係る利用者側の問題（蛭沢 勝三；元 東京都市大）
- (5)総合討論（講演者全員、高田毅士；JAEA）

### リスク部会・原子力安全部会 安全目標検討合同WG 安全目標ワークショップ

日時：2026年 3月 31日（火） 10:00～16:00

場所：東京大学本郷キャンパス 山上会館 大会議室（定員 120名）

#### プログラム：

- (1)開会挨拶（原子力安全部会 山本）
- (2)WGの検討状況としての論点（2024年度経過報告書の見直し版）の紹介と質疑（リスク部会 成宮・小野寺、東大 成川）
- (3)意見交換 第一部（技術的な論点を中心に）（座長：成宮）
- (4)意見交換 第二部（社会との関係を中心に）（座長：山本）
- (5)閉会挨拶（成宮）

参加費：無料（対面のみ。要事前申し込み）申込は、以下のURLからご登録をお願いします。

<https://forms.gle/9evCESPzj6xTzGoJ7>

登録ができない場合は、下記のお問い合わせ先のアドレスにて、ご氏名、フリガナ、所属、メールアドレス、原子力学会会員区分、をご記入の上、メールでお申し込みください。

申込期限：2026年3月25日（水）12：00

（定員に達した場合には申し込みを締め切る場合がありますので、予めご了承ください。）

リスク部会 成宮祥介、小野寺将規、山岡功 sg2025-ws@risk-aesj.sakura.ne.jp

---

## (8) 編集後記

---

リスク部会の第17号の部会報をお届け致しました。

リスク部会報は、半年に一度、その期間での活動内容の報告・紹介につき、広報・出版小委員会にてとりまとめて発行をしています。記事の作成につきまして、お忙しい中で御協力いただいた方々、大変ありがとうございました。

今後とも、様々な活動を通してリスクに関する情報の発信及び様々なコンテンツの蓄積、公開を行っていきたいと考えています。時事のトピックに関しては、部会報に加えて、ニュースレターの発行も随時行っていければと考えております。

部会報、ニュースレターへの原稿等は随時受け付けておりますので、リスク部会員の皆様からの寄稿もお待ちしておりますので、よろしくお願いいたします。

部会報、ニュースレター、及び部会HPへのご意見、ご要望、ご質問等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail : [toiawase@risk-aesj.sakura.ne.jp](mailto:toiawase@risk-aesj.sakura.ne.jp)

リスク部会のHP: <http://risk-div-aesj.sakura.ne.jp/index.html>

原子力学会会員の方は、どなたでもリスク部会にご入会いただけます。リスク部会への入会をご希望の方は、原子力学会Web サイトの部会入会ページ (<http://www.aesj.net/activity/divisions>) から行えます。